

(1) 有料化実施前後のレジ袋辞退率もしくはマイバッグ持参率について

1) 当該数値の算出方法

- ・会津若松市内のレジ袋削減に関する協定業者（7 業者 23 店舗）<sup>3</sup>から、年に一度レジ袋辞退率等を報告してもらい、各事業所の平均値によりレジ袋辞退率を算出している。なお、各事業所の算出方法は把握していないが、レジ袋辞退率の報告における条件は以下のとおりである。

【平成 27 年度報告の場合】

- ・平成 27 年度（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月まで）の実績値
- ・市内に店舗が複数ある場合は、全店舗の平均値
- ・持参率は、小数点第 1 位まで。（小数点第 2 位を四捨五入）
- ・レジ袋辞退率は、平成 27 年度まで一般廃棄物処理基本計画のごみ減量化政策の目標値の一つの指標として用いられていた。
- ・協定不参加の事業者は把握していない。

◆平成27年度 取組みの成果

	平成27年度	平成21年度(取組み前)
レジ袋辞退率	83.3%	18.5%
レジ袋使用枚数	2,709,967枚	17,456,100枚

※レジ袋の削減に関する協定を締結した事業者報告より

(出所：会津若松市ホームページ)

2) レジ袋辞退率もしくはマイバッグ持参率が向上した（しなかった）理由

- ・福島県の呼びかけにより、平成 21 年 6 月 1 日から県内の小売店（スーパーマーケットなど）で、一斉にレジ袋の無料配布が中止された。このことにより、レジ袋辞退率は一気に向上した。また、福島県は県内各地に店舗を持つ事業者と、会津若松市は、市内で営業している大手の 7 事業者及び 4 つの消費者団体と協定を締結し、取組に対する市民の理解と浸透を目指して、3 者協同で意識啓発活動を実施している。平成 24 年 5 月末で 3 年間の協定期限が満了し、その後県は協定制度から「マイバッグ推進デー」協力店制度へ移行したが、市は協定を継続して取組の更なる普及・拡大に取り組んでいる。こうした取組を通して、会津若松市では高いレジ袋辞退率を保持している。

<sup>3</sup> あいづ農業協同組合 1 店舗、生活協同組合コープあいづ 3 店舗、東北総合サービス（株）（食品館ピポット）1 店舗、（株）ブイシージー 3 店舗、ユニー（株）アピタ会津若松店 1 店舗、（株）ヨークベニマル 6 店舗、（株）リオン・ドールコーポレーション 8 店舗の合計 23 店舗

**(2) スーパーマーケット、生協・大学生協・農協、百貨店、コンビニ、ドラッグストアのレジ袋有料化の取組について**

- ・協定の参加事業者は、市内スーパーマーケット、生協、農協直売店、百貨店が参加している。一方、コンビニやドラッグストア等は会社の方針等もあり、レジ袋有料化は実現していない。

**(3) レジ袋削減の施策を行政計画に位置付けている背景、レジ袋削減対策の各種3R政策における重要度**

- ・一般廃棄物処理基本計画のごみ減量化政策において、リデュース（ごみの発生抑制）の促進「容器包装廃棄物削減の促進」に位置付けている。また、各種3R推進の中でも、リデュースは優先して取り組むこととしていることから、重要度は高い。

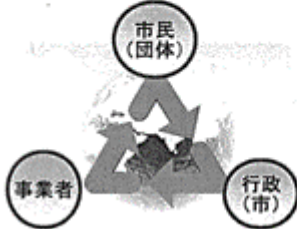
**(4) 近年新たに取り組んだ取組内容**

**1) 近年新たに取り組んだ取組内容の詳細と効果**

- ・平成21年6月1日から県内の小売店（スーパーマーケットなど）で、一斉にレジ袋の無料配布を中止している。
- ・平成24年度と25年度には、店頭でマイバッグ運動の啓蒙活動を実施した。更に、事業者、市ともに店内放送やポスター、POP、ウェブサイト等を活用して、毎月8日と9日が「マイバッグ推進デー」であるとのPR活動を行っている。市職員向けにも、庁内放送を流して啓蒙活動に取り組んでいる。
- ・平成28年には、2R行動の代表例として、不要なレジ袋を断ることで約6グラムのごみが削減される等の目に見える数値を載せたリーフレットを全戸に配布した。
- ・事業者、行政、消費者団体が集まって、昨年度までは「レジ袋削減運動推進会議」を開催していたが、レジ袋削減に限らず、ごみ減量化活動やリサイクル運動等の3R活動をCSR的に実施している事業者にも幅広く会議に参加してもらえるよう、会津若松市全体の運動になるよう、「3R運動推進会議」と名称を改め、年に一度、その年の取組結果の報告や次年度の取組内容を協議している。特に、コンビニやドラッグストア等のレジ袋有料化が難しい事業者の参画を念頭に置いて、名称変更を実施した。
- ・協定に参加していない事業者（コンビニやドラッグストア等）を対象に、3R運動推進会議への参加者拡大に向けた取組を行っている。例えば、以前までは、レジ袋有料化が会議に参加するための必須条件であったが、それを撤廃し条件を緩和して参加者の増加を促している。

## 「会津若松市3R（スリーアール）運動推進会議」ってなに？

目的：会津若松市における3Rの取組みを推進します



「3者協働」イメージ図

会津若松市の市民団体、事業者、市役所により構成された「3R（スリーアール）」の取組みを推進する会議。  
3R（リデュース(ごみの発生抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再生利用))の推進により、ごみを減らし、環境を大切にしたいと暮らしの実現（ごみを出さないライフスタイル）を目指していきます。



「3R」とは  
「リデュース（発生抑制）」＝できるだけごみを出さない  
「リユース（再利用）」＝使えるものはくり返し使う  
「リサイクル（再生利用）」  
の英語の頭文字を取った言葉で「3R（スリーアール）」と呼ばれます。

**【事業者】 ※7事業者**  
・キャンペーン、イベント等の会場提供（店舗の飲食スペース、キャンペーンブース）  
・キャンペーン、イベント等の企画、運営  
・リサイクル製品の積極的な販売

- 1 株式会社ブイシー
- 2 株式会社ヨークベニマル
- 3 株式会社 リオンドールコーポレーション
- 4 JA会津よつば ファーマーズマーケットまんまーじゃ
- 5 JR東日本東北総合サービス株式会社 会津若松営業所（食品館ビレット）
- 6 生活協同組合コープあいづ
- 7 ユニー株式会社アピタ会津若松店

**【市民(団体)】 ※4団体**  
・キャンペーン、イベント等の運営及び参加の協力（会場設営、来店者への呼びかけ、団員への周知など）

- 1 会津若松消費生活研究会
- 2 生活学校会津あい
- 3 会津若松市婦人団体連絡協議会
- 4 環境未来・あいづネットワーク

### 【行政(市)】

・会津若松市3R運動推進会議の主催、共催事業について、市政だよりや市ホームページなど、様々な広報媒体により重要な広報を実施します。  
・本会議の事務局（連絡調整）

### 広報の種類



（出所：会津若松市資料）

- ・3R 運動推進会議と名称を変えたことをきっかけに、市内の喫茶店でエコカフェを開催している。今年3月に開催したエコカフェでは、「資源物の店頭回収」をテーマに、市民団体と事業者が、ごみの捨て方やリサイクルの仕方等ざっくばらんに協議を行った。

### 【平成 26 年度開催のエコカフェの様子】



（出所：会津若松市ホームページ）

### 2) 近年新たに取り組んだ取組内容の効果

- ・平成 27 年度のレジ袋削減率は 83.3%と高水準を保持している。

## (5) レジ袋削減対策の拡充予定

### 1) レジ袋削減対策の課題について

- ・平成 21 年度より継続して啓蒙活動に取り組んだ結果、80%以上のレジ袋削減率に加え、利用者の意識にマイバッグが浸透してきたものと認識している。これ以上の削減率を目指すためには、利用者の利便性を犠牲にする必要があるため、現実的な目標として現状維持を継続していく。
- ・会津若松市では、レジ袋をごみ袋として利用できる環境があるため、有料でもレジ袋を購入する消費者も一定数おり、その辞退率を上げることは難しい。

### 2) 今後強化したい取組、新たに取り組たいもの

- ・3R 推進運動を通して、コンビニやドラッグストア等の事業者に参加の拡大を促していきたい。コンビニは今や、住民に一番近いスーパーマーケットであるからこそ、行政と協働できる部分を探っていききたい。
- ・レジ袋削減の取組だけでなく、家庭および事業者から出される生ごみ等の食品ロスの問題とも連携しながら、今後取組むことができる活動の幅を増やしていきたい。「もったいない」を市民が身近に感じられるような政策を展開していきたい。
- ・「私ひとりがやったって・・・」と感じている市民に対して、「みんなでやらないと地球環境の改善に繋がらない」という危機感を浸透させるため、啓蒙活動には力を入れていく。
- ・エコカフェの参加者はごみ減量化について非常に関心が高い方だが、そこまで関心が高くない住民にも意識を持ってもらうためには、こうした取組を継続して行政から発信していくことが大事だと考える。参加者の殆どが 50 代以上の婦人で、若い世代の参加者が少ないので、次回以降は会津短大のサークル等に声掛けすることも視野に入れている。